

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における啓発小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （１）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （２）各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （３）各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・啓発小学校では、5年生 42名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立啓発小	学校	児童数	42
---------	----	-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.28	17.89	30.80	37.50	35.44	9.38	146.94	19.19	49.29
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	15.50	17.91	37.29	36.19	33.70	9.65	137.14	11.76	52.11
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

結果の概要

- 体力合計点の平均値では、大阪市平均値より、男子は1.84ポイント、女子は0.36ポイント下回った。
- 質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか」において、肯定的な回答をした児童の割合は、男子78.9%（市平均93.4%）、女子86.4%（市平均84.5%）であった。
- 質問項目「学校の保健体育科の授業以外での、1週間の総運動時間」において、「60分未満」と回答した児童の割合は、男子17.7%（市平均11.0%）、女子9.0%（市平均19.9%）であった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

- 体育の授業以外にも、耐寒かけ足や長縄チャレンジ週間などを設定することで、体力・運動能力（体力合計点）の向上に努めたが、男子、女子ともに大阪市平均を下回った。運動に親しむ取組を継続することで、児童が運動やスポーツを好きになり、自発的に運動する時間を伸ばしていく。
- 児童が粘り強く運動に取り組む態度を育成できるよう体育科の指導技術向上をめざすとともに、体力や運動能力の自身の成長を実感できる授業展開や体育行事の工夫を行っていく。